THE NIKKAN KENSETSU TIMES

2015(平成27)年
4月20日(月曜日) 第13533号
千葉版

日刊建設タイムズ

www.k-tim

発行所 日刊建設
〒260-0854 千葉市中央
電 話043-225-5911 F
Eメール info@k-times.com
日刊(土・日・祝日休刊)
購読料 1か月 7,700円
6か月 46,200円

昭和41年12月14日 第3種郵便物認可 ©日刊建設タイムズ社 2015

きょうの紙面

公共 佐倉酒々井組合／八千代で焼却施設基本設計 2

民間 松戸市開発許可／国分土地建物松飛台専住等 2

民間 船橋市中高層／あすみ苑船橋新築工事など 3

公告 浦安市／富岡公民館大規模改修建築工事 8

公告 NEX館山自

君津中央病院

診療棟増築・病

築及び病院棟改修の基本計画と大佐和分院施設整備基本構想・基本計画を策定するもので、業務はアイテック(東京都中央区日本橋本町1−6−5)が担当している。

経営計画では、診療棟の増築及び病院棟の改修は来年度で実施設計を行い17年度に着工、分院は17年度に基本設計を行うことを想定した。今後、関係市及び関係機関と協議しながら事業を進めていくため、経営計画での16年度以降の投資額計上は見送った。

計画の中で併せて検討を進一億4300万円。

床への稼働増。15年度基本くための施設整備の実施調査費120万円)、16年

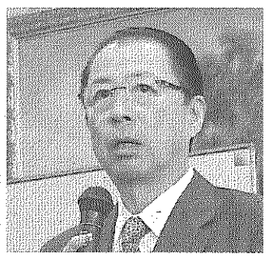
国を救う建設業に誇りを

千建協・東保証■新入社員研修会

座談会で交流 エール送る

3日間にわたる(一社)千葉県建設業協会(鈴木雅博会長)と東日本建設業保証㈱の共催による「2015年度新入社員研修会」は、9日に最終日を迎えた。この日は飯塚行政書士FP事務所の飯塚重紀代表が「社会人として知っておくべきマネーの基本」、㈱建設経営サービスの村井順・主席コンサルタントがグループ演習「9人の配置換え」を行った。さらに、千葉県建設業協会の高橋順一、石井良典両副会長が「建設業界に迎えて」をテーマに、受講者との座談会を通して交流を深めるとともに、抱える不安を払拭し、建設業界への旅立ちにエールを送った。

あいさつする高橋副会長㊧と石井副会長



ゲームで学び 実践で活用

グループ演習「9人の配置換え」では、社会に出て課題に直面した時に、多くの人々と協力し、解決へと向かう場面でのコミュニケーション力と問題解決能力を養う「共働ゲーム」を実施。ゲームは「ある会社に9つの組織がある」という設定で始まり、それぞれの組織に所属する「9人の人事異動の配属先」を割り出すもの。受講者を5〜6人の8班に分け、班ごとに20枚のカードを配布。さらに20枚のカードを、1人あたり3〜4枚ずつ配る。カードにはさまざまなヒントが書かれており、それらの情報を組み合わせて正解を導き出す。カードに書かれたヒントの交換は口頭のみで、受講者は錯綜する情報に頭を悩ませながら、1つの目標に向かい、それぞれの知恵と意見を出し合った。村井・主席コンサルタントは「意見を出したり、吸い上げたりする場面はすぐに訪れる」としたうえで「ゲームで学んだ能力を存分に活用してほしい」と受講者に呼びかけた。

社会に認められる存在

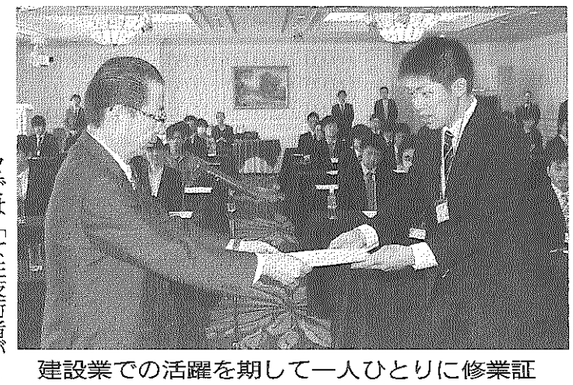
両副会長による座談会では、質問事項として受講者に対し、事前にアンケート調査を実施。寄せられた質問に両副会長がそれぞれ回答した。「現場でまず覚えるべきこと」や「建設業界の仕組み」といった、新入社員ならではの質問には、自身の経験を交えながらアドバイスし、受講者の不安や重圧を取り除いた。

座談会に先立ち、高橋副会長は「建設業界に皆さんを迎えられたことを嬉しく思う」と歓迎の意を示し「この業界に入って約40年、その経験の中で学んだことから質問に答えたい」とあいさつ。石井副会長は少子化問題を取り上げ「家庭を持つのも社会に認められる一つの要素」であるとし、東日本大震災において地域の復旧活動に尽力したことで「大切さと身近さが社会に認められた建設業に強い誇りを持ってほしい」と呼びかけた。

先輩の姿から学ぶ プロとしての知識

式田建設工業㈱の山田磨史宇さんの「新人時代はどのように過ごしたか?」という質問に対し、石井副会長は最初に配属された現場について「先輩の機敏な動きと指示を見て心が打たれた」と振り返り、「一日も早く先輩のようになりたいという思いで、毎日のように先輩に質問をして過ごした1年は、あっという間だった」と答えた。松原建設㈱の田中将吾さんの「建設業界で一番必要な知識は?」という質問に、高橋副会長は「不要な知識は無い」とし、「プロとして市民に必要とされるための知識を学ぶとともに、どんなことにも関心を持つ姿勢が重要である」とした。

グループ演習に取り組む受講者



建設業での活躍を期して一人ひとりに修業証

海外進出と女性の活躍

岡田土建㈱の長塚有美さんの「日本の建築技術は海外に進出するか?」という質問には、石井副会長が「日本は地震国家で、強度の高い建築物が造られている」と説明。「安全の上にすべてが成り立つ」と強調し、「日本の建築技術は世界に誇れる力量である」と答えた。㈱藤田土木の山口真穂さんは「建設業に占める女性の割合は?」と質問。これに対し高橋副会長は、12年の総務省統計局によるデータでは「女性技術者が1万人、技能者は9万人」であり「建設業全体の3%」と説明するとともに、12年からの5年間で「今の2倍の6%にする」という目標も紹介。今後はさらに力を入れて、女性活躍の環境整備を行うこととした。

座談会の最後に、両副会長は「地域や国家を救うのは建設業だという強い信念と確信を持ち、この業界で長く活躍し続けて欲しい」と激励。受講者一人ひとりに同協会から修業証を交付し、3日間にわたる研修会は終了した。

利根川上流 15年度事業

柴崎地区で築堤着手

目吹ステーションは盛土

国土交通省利根川上流河川事務所は17日、2015年度の主要事業を公表した。同事務所の15年度事業費は181億7900万円(うち河川改修費143億4000万円)で前年度当初比13・8%減。千葉県関係では柴崎地区改築(我孫子市)や目吹地区河川防災ステーション整備(野田市)などがある。

15年度事業の主な内容は次の通り。

◇

▽古河築堤・明和築堤(茨城県・群馬県)・釈水樋管改築に着手予定)＝利根川左岸堤防の堤防断面や高さが不足している箇所について堤防整備を行うもので、併せて古河市水海地先で排水施設の改築を実施する。

▽稲戸井調節池整備(茨城県)＝守谷市・取手市にまたがる稲戸井調節池において治水機能の向上を図るため、用地取得及び掘削を行うとともに、周辺環境へのモニタリング調査を実施する。

▽柴崎地区改築(千葉県:築堤着手)＝我孫子市にある後田樋管付近の堤防は高さ・断面が不足している区間となっていることから、段階的な堤防整備が必要な区間。このため、我孫子市による浸水被害対策(樋管改築)と併せて堤防整備を実施する。

▽河川防災ステーション、水防拠点整備(千葉県・埼玉県)＝目吹地区(野田市)の河川防災ステーション、水防拠点整備のため盛土工事を行う。

▽水門及び排水機場の改善(埼玉県・栃木県・茨城県・群馬県)＝福川水門、渡良瀬調節池第1排水門、渡良瀬調節池第2排水門、稲戸井排水門の開閉装置の改善と新堀川排水機場の老朽化した主原動機の更新を実施する。

東京五輪の都市づくりで提言書

都市計画家協会

日本都市計画家協会長＝小林英嗣・北海道名誉教授)は、2020東京五輪・パラリンピックの都市づくりに関する提言書をまとめた。水辺の活用や、選手村の一部を木造にして中層住宅市街地の一部にすることなどを挙げている。また、中長期的な共施設再配置・再編計画の立案、事業実施も求めた。

協会では、今回の五輪を東京の都市づくりに「遺産を残せるよう、研究会を設置して具体的な提案に関する検討を重ねていた。

提言書は舛添都知事宛で、16日に安井都市整備長へ手渡した。協会では今後も継続的に議論を続けるほか、6月にはシンポジウムを開く。

土砂災害警戒避難ガイドライン改訂

国交

国土交通省は17日、土砂災害警戒避難ガイドラインを改訂した。土砂災害の危険性を継続的に周知するとや、防災情報を住民へ実に伝達することなどを盛り込んだ。

警戒避難に関する体制くりの手引書として、都府県・市町村にも活用していく。

昨年8月の広島土砂災害で大きな被害が発生したことを受けて、改正土砂災害防止法が1月に施行されている。法改正を踏まえ、戒避難体制を充実・強化するためにガイドラインを改訂した。